

洛友会会報

京都大学工学部
電気系教室内
洛友会
京都市左京区吉田本町

洛友会総会を終わって

副会長 大谷 泰之

先づ最初に会員の皆様は益々ご健勝にお過しのこととお喜び申し上げます。

洛友会も会員総数は5300名を超え、会の運営状況も益々充実発展しておりますこととはご同慶の至りであります。別稿本部(会計)報告の通り、会計状況は会費の値上げを十三年間もしていないにも拘わらず総会費収入も年々上昇しており、又卒業年次別の平均会費納入率は昨年度よりは減少してはいるもののそれでも60数%もあつて、お蔭様で次年度繰越金は1000万円の大台を越えたことは全く今昔の感があります。この機会に会員の皆様、とくに本部の近藤、竹村常任幹事のご協力とご苦労に重ねて感謝申し上げる次第であります。

さて例年五・六月に本部及び各支部の総会が開催されるが、今年

は5月19日高松で開かれた四国支部総会を皮切りに5月25日の広島での中国支部、続いて翌26日博多での九州支部、6月3日大阪での関西支部、又同日名古屋での中部支部、6月17日東京での支部及び本部総会、最後に6月24日仙台での東北支部と計7支部及び本部の総会が開かれた。

各常任幹事が出席された。これら本部及び各支部総会の模様は殆んど別稿各支部の報告記事を見て頂ければ幸であるが、各支部総会で役員改選があつた中で、一年毎に交替の東京支部では坂田邦寿氏(昭23卒)から三浦武雄氏(昭24卒)へ、関西支部では角田寛氏(昭18卒)から大島幸一氏(昭19卒)へ、九州支部では深町藤吉氏(昭22卒)から上田保之氏(昭27)へ、又本部では副会長で教室代表の池上文夫氏(昭22卒)から川端 昭氏(昭28卒)へ夫々交替された。この機会にこれらの各支部長や本部副会長が在任中本会のために格別のご援助ご協力頂いたことに対して茲に深い感謝を申し述べたいと思ひます。更に新支部長各位に特に本年度は名簿発行年に当るのでその広告募集等について格別のご協力をお願い申し上げますと共に、各支部のその他の役員の皆様や会員の皆様にも宜敷くご援助の程お願い申し上げます。

次に例年各支部総会には諸先輩のお元氣な姿がみられるが、本年は先づ四国支部では本部顧問の渡部兼雄氏(大12卒)中国支部では本部副会長の真田安夫氏(昭2卒)関西支部では本部幹事の荒井一郎氏(大10講卒)の皆様なお元氣な話が聞かれた。

又珍らしい話題の一つとして関西支部では上林明氏(昭3卒)と長男の上林力氏(昭41卒)の二人が出席され揃って段上で挨拶があつたが、明氏の今は亡き父君上林一雄氏(大6卒は松田会長と同期)と親子三代に互つての会員であることはご同慶の至りで、一寸羨ましくも思われたことでもあつた。

又東京支部総会では長寿の方で米寿と喜寿の方々のお祝いがあるが、本年は4人が米寿を、5人が喜寿を迎えられ、そのうち市村宗明氏(昭9卒)高木正氏(昭10卒)杉本省一氏(昭11卒)の三名の方々のお元氣なスピーチがあつた。又昨年米寿を迎えられた中村秀治氏(大10講卒)山上孝氏(大14卒)も出席され夫々スピーチがあつた

が、とくに飛入りで昨年通り中村秀治氏の「オーイ中村君」の元氣な歌声が会場に流れた。

次に各支部総会で役員の方々は会員の出席増加に努力しておられ、又若い方の出席が余りよくないことや最近は何年ご高令の方も増加していること等に氣を使つておられることほどの支部でも同じであつた。中には四国支部のような出席率、40%近い支部もあるが、この出席状況によつても相違していることは勿論である。本部の運営、会計状況と同様、本部や各支部役員の方々のご努力ご苦労の程をお察しした次第であつた。

終りに会員の皆様の益々のご健勝とご多幸を祈りますと共に、本部及び支部の役員の皆様のご援助ご協力を重ねてお願い申し上げます。

教室だより

電気系教室

教官の異動

前号のお知らせ以降、次のような異動がありました。

池上文夫

平成元年3月31日、電子工学科

室(電子回路講座)を定年退官、
名誉教授。4月1日より拓殖大学
工学部教授に就任。
(昭和22年電気工学科卒)

阿部宏尹

平成元年3月31日、電子工学教
室(板谷研)講師を退職、4月1
日より竜谷大学情報工学科教授に
就任。
(昭和39年電気工学科卒)

中村順一

平成元年4月1日、電気工学第
二教室(長尾研)助手より、九州
工業大学情報工学科助教に昇任。
(昭和54年電子工学科卒)

川上養一

平成元年4月1日、電気工学教
室(藤田研)助手に採用。
(昭和59年大阪大学電気工学科卒)

八坂保能

平成元年5月1日、電子工学教
室(板谷研)助手より同助教教授に
昇任。
(昭和47年電気工学第二学科卒)

昭和63年度収支決算

昭和63年4月1日から平成元年3月31日まで

収入の部 (単位:円)

科目	決算額	予算額	備考
会費(学部)	7,659,000	7,600,000	
々(講習所)	425,300	350,000	
預金利子	330,898	300,000	
広告掲載料	65,000	100,000	
雑収入	6,000	10,000	名簿の会員外販売等
収入小計	8,486,198	8,360,000	
前年度繰越金	9,582,047	9,582,047	
合計	18,068,245	17,942,047	

平成元年度収支決算

平成元年4月1日から平成2年3月31日まで

収入の部 (単位:円)

科目	予算額	63年度決算額	備考
会費(学部)	7,900,000	7,659,000	
々(講習所)	350,000	425,300	
預金利子	320,000	330,898	
広告掲載料	3,300,000	65,000	62年度決算額 3,273,000
雑収入	10,000	6,000	
収入小計	11,880,000	8,486,198	
前年度繰越金	10,227,280	9,582,047	
合計	22,107,280	18,068,245	

支出の部 (単位:円)

科目	決算額	予算額	備考
名簿編集費	0	0	
電算機処理費	0	0	
印刷費	0	0	
発送費	0	0	
会報編集費	10,000	10,000	アルバイト費
印刷費	648,000	650,000	毎号5,200部 印刷年4回発行
発送費	1,443,410	1,500,000	
備品費	0	0	
通信費	90,700	100,000	
会員原簿管理費	697,965	800,000	計算機処理費等
合費	359,044	300,000	常任役員会
集金費	327,000	340,000	
集金消耗	159,820	160,000	振替払込手数料
旅費	205,100	400,000	
旅費	201,200	300,000	支部総会出席 交通費等
懇話会補助費	250,000	250,000	
支部交付金	2,709,000	2,709,000	
事務人件費	720,000	720,000	
雑予備費	19,726	21,000	応研謝礼
雑予備費	0	100,000	
支出小計	7,840,965	8,360,000	
次年度繰越金	10,227,280	9,582,047	
合計	18,068,245	17,942,047	

支出の部 (単位:円)

科目	予算額	63年度決算額	備考
名簿編集費	20,000	0	62年度決算額
電算機処理費	250,000	0	240,000
印刷費	4,000,000	0	3,830,000
発送費	1,300,000	0	1,239,360
会報編集費	10,000	10,000	
印刷費	700,000	648,000	毎号5,300部 年4回発行
発送費	1,600,000	1,443,410	
備品費	0	0	
通信費	100,000	90,700	
会員原簿管理費	800,000	697,965	計算機処理費 常任役員会 合費
合費	400,000	359,044	
総会費	350,000	327,000	
集金費	160,000	159,820	振込手数料
集金消耗	300,000	205,100	
旅費	300,000	201,200	支部総会出席 旅費等
懇話会補助費	250,000	250,000	
支部交付金	0	2,709,000	
事務人件費	720,000	720,000	
雑予備費	20,000	19,726	応研謝礼
雑予備費	600,000	0	
支出小計	11,880,000	7,840,965	
次年度繰越金	10,227,280	10,227,280	
合計	22,107,280	18,068,245	

預金及び現金 平成元年3月31日現在

信託預金	1,000,000	普通預金	346,750
定期預金	6,900,000	郵便振替	29,990
定額預金	1,800,000	現金	150,299
当座預金	241		
合計 10,227,280			

昭和63年度各支部交付金 (単位:円)

支部名	交付金額	支部名	交付金額
北海道	4,700	関西	927,800
東北	12,200	中国	245,000
東京	1,140,100	四国	135,500
中部	92,300	九州	100,700
北陸	50,700	計	2,709,000

昭和63年 新年挨拶広告募集状況 (単位：円)

支部名	件数	総額	本部収入額	支部収入額	備考
関西四本	9	90,000	45,000	45,000	
	3	30,000	0	30,000	
	2	20,000	20,000	0	
計	14	140,000	65,000	75,000	
62年度	17	170,000	85,000	85,000	

支部だより

平成元年度

洛友会総会

平成元年度総会は、去る6月17日(土)東京目黒の八芳園において、85名参集のもとに午後3時40分より行われた。

今年の総会は開催地が東京のため本部からは大谷副会長、近藤・竹村両常任幹事が出席した。まず、近藤幹事司会のもとに、

大谷副会長が松田会長の近況、本部の現況や出席された各支部の概況等を含めてご挨拶があり、引続いて近藤幹事より昭和63年度事業報告、平成元年度事業計画、役員改選(別項参照)並びに会則改正(別項参照)についての説明があり、次いで竹村幹事より昭和63年度決算の説明、大谷副会長より同内容の監査結果の報告があり、続いて同幹事より平成元年度の予算案の説明があった。以上各案件を審議の結果それぞれ原案通り可決されました。

なお、63年度決算、元年度予算については別表をご参照ください。引続いて卯本教授から配布されたプリントにより今年の進学・就職状況など教室の現況並びにスライドによる教室西側新館特に懐しの正面玄関ポーチ、銀杏樹などが新装の校舎と共に映写され、会員一同は感銘深く観賞した。

右記以外の役員(顧問および幹事)は次の通りであります。

洛友会役員 変更について

6月17日本部総会において左記のとおり推薦されそれぞれ退任及び新任が承認されました。

記

洛友会会則第7条によれば、会長及び副会長は総会において推薦

し、第10条によれば、その任期は2年とし、重任を妨げないことになっていきます。会長及び副会長候補者として左記の方々を推薦いたします。

- 会長 大6 松田長三郎 (留)
- 副会長 大13 菅原義重 関西(留)
- 大13 本田静雄 中部(留)
- 昭2 真田安夫 中国(留)
- 昭5 金井久兵衛 北陸(留)
- 昭6 上西亮二 関西(留)
- 昭13 大谷泰之 教室(留)
- 昭28 川端 昭 教室(留)
- 講大10 越坂延夫 △会(留)

- 顧問 大12 渡部兼雄 (留)
- 幹事 昭2 内田幸夫 (留)
- 昭13 松尾三郎 (留)
- 昭16・12 三國文治郎 (留)
- 昭18 近藤文治常任(留)
- 昭26 木 嶋 昭常任(留)
- 昭31 小倉久直 (新)
- 昭41 荒木光彦 (新)
- 講大10 荒井一郎 (留)
- 講昭13 竹 村 清常任(留)
- 講昭14 神戸俊夫 (留)

洛友会会則の改正について

現行会則(昭和50年6月一部変更 名簿第9頁参照)は左記の通り改正承認されました。

記

第1条より第5条は変更なし。
第6条 本会には次の役員を置く。
会長 1名
副会長 若干名 うち1名は電気系教室の最年長教授をもってこれに当てる。

第7条 会長及び副会長は総会の議を経て推薦する。
第8条 会長は会務を統括処理する。副会長は会長を補佐する。幹事は会長の指導の下に会務を処理する。
第9条 本会には顧問若干名を置くことができる。顧問は役員会の議を経て推薦する。
第10条 会長、副会長、幹事及び支部長は役員会を組織し、会の重要事項を審議決定する。
第11条 会長は評議員若干名を卒業年度別に選出し委嘱する。

2 評議員は会長の諮問に応えるとともに当該年度卒業生と本会との連絡に当る。
第12条より第18条は現行会則の第10条より第16条と同じ。

洛友会東京支部総会 本部総会の報告

平成元年度の東京支部総会を、洛友会本部より大谷泰之名誉教授(昭和13年卒・副会長)、近藤文治名誉教授(昭和28年卒・幹事)卯本重郎教授(昭和28年卒)をお迎えして、本部総会と併せて、6月17日(土)に東京目黒の八芳園において開催した。

東京支部総会では坂田前支部長の挨拶に続いて、昭和63年度の行事報告並びに決算報告を林総務幹事が行い承認された。
次に平成元年度新役員が以下のとおり選出された。支部長―三浦武雄(昭和24年卒)、副支部長―西岡博(昭和25年卒)、総務幹事―松尾義武(昭和45年卒)、会計幹事―高重哲夫(昭和46年卒)。新役員を選出した後、新支部長の挨拶に続き、平成元年度行事計画、並びに予算計画が承認された。
最後に平成元年に米寿を迎えられる会員(4名)、喜寿を迎えられる会員(5名)、方々にお祝いを贈呈した。次に近藤文治幹事の

司会により、本部総会が開かれた。大谷副会長の挨拶では松田長三郎名誉教授(会長・95才)の近況報告があった。

後のパーティでも松田会長についてのお話があったが、会長があるパーティで、乾杯の音頭のところをいきなり「ばんざい」をやってしまったというエピソードなど、お元氣そうなお話であった。次に近藤幹事より昭和63年度行事報告、予算決算及び平成元年度行事計画予算計画が説明され承認された。

また、洛友会会則の改正が提案され承認された。最後に役員改選が承認された。この後卯本教授より電気系教室の近況報告があった。まず教室の先生方の異動と就職状況が説明された。最近の学生の製造業離れの傾向が現れ、前年度に比べ10名程、金融業など三次産業へ行く人が増えたとのことである。

次にこの度完成した新校舎の説明がスライドを使って行われた。明治時代からの歴史ある赤レンガの建物を一部残した苦心の跡がしのばれるもので、全員が感心、満了した様子である。

支部総会、本部総会の終了後、会員相互の親睦のため懇親会が開かれた。昨年米寿を迎えられた中村秀一氏(大正10年講卒)の「おー

い中村君」の歌や、今年喜寿を迎えられた市村宗明氏(昭和9年卒)、高木正氏(昭和10年卒)、杉本省一氏(昭和11年卒)の健康法の話

平成元年度 関西支部 家族見学会

(予告)

恒例の関西支部家族見学会を次のように計画しております。案内状は9月上旬に送付しますので、奮って御参加下さい。

記

期 日 平成元年11月5日(日)

行 先 明石海峡周遊(クルージングとグルメ)と
海洋博物館見学

集合場所 神戸港中突堤 南船客待合所

費用 大人 5,000円
小人 3,000円(未定)

定 員 200人

関西支部総会

関西支部の平成元年度総会は、6月3日16時から都ホテル大阪で開催された。大正10年卒業の大先輩から昨年卒業の新会員まで、同伴者2名を含め65名が参加し、本部からは大谷副会長と卯本教授、竹村常任幹事がみえられた。

最初に角田支部長が挨拶し、関西支部にはほぼ2000名の会員が所属し、家族旅行会やゴルフコンベンなど、活発な活動を行って会

などがあり、なごやかな雰囲気でも来年の再会を誓いながらパーティを終了した。



な日常を紹介され、又洛友会各支部の近況についても詳しい話があった。

そのあと議事に入り、昭和63年度事業及び決算報告と、平成元年度事業及び決算報告について上田会計幹事が説明し、満場一致了承された。

ついで現役員の任期満了にともなう新役員の選任があり、新支部長に現副支部長の大嶋幸一氏(昭和19年卒)が、また副支部長には東松孝臣氏(昭和27年卒)が、そして総務及び会計幹事にはそれぞれ松井捨和氏(昭和41年卒)及び大西一彦氏(昭和46年卒)が選ばれた。

大嶋支部長は就任の挨拶で、関西支部には約半数の会員が所属し、洛友会の推進母胎として会員の親

睦と学術文化の発展に寄与してきましたが、この伝統を引き継ぎさらに深化させることに、できる限りの力を尽くしたいと抱負を語られた。

また恒例の行事については、11月5日に家族旅行会を、12月17日に親睦ゴルフコンペを開催する予定であると予告された。

議事終了後卯本教授から教室の現況について報告があり、63年度卒業生の就職状況や、赤煉瓦の旧電気工学教室の改築状況についてスライド写真を写しての説明があった。



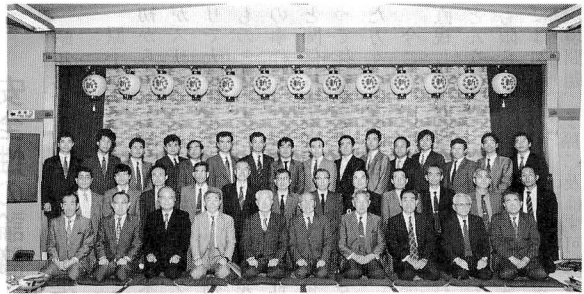
上林明氏（昭3年卒）とご子息の上林力氏（昭41年卒）が親子で参加しておられたが、大谷副会長により紹介され、さらにお祖父さんの故上林一雄氏も大正6年卒で松田会長と同期であり、三代にわたって洛友会会員であるといわれて全員の拍手を浴びた。

会員の中には何年ぶりかであったとゆう懐かしい人たちもいて、なかなか話題の種はつきなかつたが、最後に最年少の坂井寛久君（62年卒）の発声で万歳三唱し、暮れ行く大阪の町並みを窓下に見下しながら懇親会を終わった。

第34回洛友会 四国支部総会報告

5月19日（金）、高松市内の旅館「新常盤」において第34回洛友会四国支部総会が開催された。本部から大谷名誉教授、板谷教授の御出席をいただき、支部からは36名の会員が集まった。

総会は大谷先生のウイットにとんだ挨拶に始まり、板谷先生からの電気教室近況のお話の後、会務会計報告、会則改正案および予算案審議を行ない、また永井先輩はじめ7名の初参加メンバーの自己紹介も交え、無事終了した。



第34回 洛友会四国支部総会 平成元年5月19日 於 新常盤

引き続き懇親会に入り、先生方との歓談や久しぶりに顔を合わせた先輩や友人と酒を酌み交しながらの談笑など、楽しいひとときを過ごした。最後に全員が肩を組み、恒例となった「琵琶湖周航の歌」の合唱で懇親会を終えた。

翌朝、大谷先生は御多忙との事で、中川支部長と高松駅で御見送りさせていただいた。

一方、板谷先生は、近藤、今岡両先輩がお伴して観光に出発、瀬戸大橋プールの余波で賑わう金刀比羅宮を御覧いただいた。板谷先生と近藤先輩とは大学同期のごと、30年ぶりの再会に話もはずみ、



有名な千段の石段もあつたという間にのぼりきり、奥まった本殿への参拝を済ませられたとのことである。その後、早めの昼食を済まし、午後からの会議に間に合うよう、坂出駅より、瀬戸大橋経由のマリナライナ84号で元気に帰京された。（昭54年卒長井記）

九州支部総会

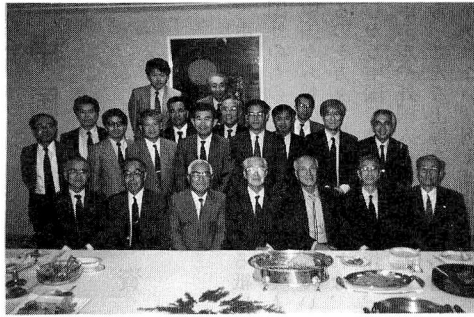
風がおる5月のよき日、1年振りに懐かしい顔ぶれが福岡市に集い、本部から大谷副会長、大学から荒木教授をお迎えして、洛友会九州支部総会が盛大に開催されました。

当日総会は、大谷副会長から松田先生の相変わらぬ御元氣なご様

子をユーモアたっぷりにお聞かせ頂くとともに、荒木先生からは、スライドにより新装なった電気教室の紹介を頂き、電気教室の発展に全員胸を熱くいたしました。

引き続き役員改選がおこなわれ、永年支部長として御活躍いただいた深町支部長が、勤務地の関係で、勇退され、上田新支部長の誕生となりました。

なお、折しも福岡市は市政100周年を記念して、アジア太平洋博覧会が開かれおり、大谷先生・荒木先生にはお忙しい中、短い時間ではございましたが、ご見学頂くことができました。



同窓会だより

29稀会 卒業35周年 クラス会

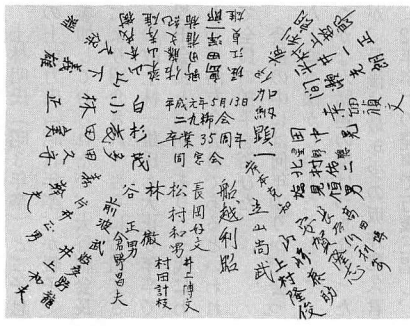
昭和29年卒業組は、戦争中に多感な青春時代を送り、戦後の物のないときに大学に学び、その高度成長の担い手として、若手のつきあげと上司のしめつけに苦労し、どちらかと云えば多難な人生を送ってきた。新制と旧制のはざまにあつて昭和2年生れから昭和7年生れまで混在し、人のいいのがとりえという人間が多い。憎まれ子世にはばかつて長生きしようというので、29稀会という名が数年前についた。今まで卒業10周年（京都京大和）、20年（南禅寺順正）、25年（真船べにや）30年（宇治花屋敷）、33年（箱根水明荘）とクラス会も回を重ねてきた。そして今年はその35周年クラス会を平成元年5月13日（土）に比叡山国際観光ホテルで行った。

35年ぶりに顔を合わす者もいるが、共通して云えることは、髪の毛が白く又はうすくなったこと（例外あり）、酒が弱くなり、紳士が多くなったこと（もちろん例外はある）である。（用意したウイスキーの半分も余った）

卒業生70人中、43人が、東や西から馳せ参じ、会はいやが上にも盛りあげた。それぞれの職場では皆えらいはずだが(社長や副社長と名のつく人が7人もいる)、酔うほどに皆学生時代にかえり、遠慮のない言葉がとび交い、愉快なひとときを過した。最後に琵琶湖周遊歌と三高寮歌を歌って1次会の幕を閉じた。(宿泊は比叡山ホテルだが、宴会場は隣接する叡山閣の疊の間で行った)。

続いてホテルのラウンジを借り切って2次会、夜のふけるのも忘れて話に興じた。

翌14日、前日までの雨もあがり、京都市内や琵琶湖が遠望できたことは、気分よく帰るにふさわしい贈物であった。バスで京大まで送ってもらい、新装なった電気工学教室や、大型計算機センターを見学



次回の再会を約して別れた。

我々の同窓会の特長は、近況報告を要請しないことである。あらかじめ皆に書いてもらった近況報告をコピー製本して皆に配布する。世話役は大変だが、効率的で便利だ。酒の席も盛りあがる。参考のため付記する。

なお今回の幹事役は梁山、長谷川、平井が担当した。

文責 平井一正

会員寄稿

原子力発電の安全性の論議

昭和13年卒 平野 進

原子力発電の安全性について当初から色々の議論がなされて来たがスリーマイル島、チェルノブイリで重大事故が起つて以来、真剣なものとなった。とくに福島原発での事件では、故障の実態と会社側と関係官庁の直後の対応ぶりを知つて身も凍るばかりの想いをされた方々が多いと思う。

今こそ一切の偏見なしに事実を直視し現実的な対応をしなければどんな恐ろしいことが起らないとも限らない。現実的な対応のなかには勿論電力不足に対する対策、環境問題、子孫に及ぼす可能性の

除去も含む。

20年以上も前のこと、母校の某先輩を招いての講演会で、安全性に対する危惧を一聴集が質問したところ、共産党その他の方々からもよくこの種の質問が出来ますと断つて応答がなされた。その応答は理工学的な常識から見て満足出来るものでなかった。講師は電力会社の上層の重役であったからその立場上歯切れのよい返事が出来なかつたことは理解できるが「前置き」は怪しからぬことだと思ふ。正面切つて質問者を「赤よばわり」をしないもののこの前置きは同種の質問を封じる目的でなされたものに違いない。

母校で、原子力発電の講義が行なわれる際、学生に是非とも純粹に自然科学の立場から深く考えさせ卒直な意見の交換を行なうよう指導して頂きたい。リクルート問題でも何の関心も示さぬ学生であるから、きつと、これをキリスト踏み絵テストと解釈し適当に教授につき合うのに違いないが、赤であるとか赤かも知れないという評判を立てさへすれば一言でライバルを社会から葬り去れる日本の体質(教育行政の産物)は本当に恐ろしい。人間としての良心に振われる暴力が公認されている現状だ。これでは祖国は亡びるに違いない。教授には安全性とエコロジーを

授業内容に含めて下さるようお願いする。

中国雑記(9)

昭和23年卒 陶坊資

紙

ホテル等で備えつけてある紙は国外のものとならない。日本でも中国から輸入したものを使っているのを方々で見かける。これは、しかし中国では最上等の部類で、ホテルや外国人の事務所を離れたら、こんな上等なものにはお目にかかれない。例えば北京国際空港のトイレ、先ず入った所に、黒皮の鉄筋を溶接して作った大きな枠状のものがあり、それに鉄筋が水平に2段か3段とりつけてある。

この水平鉄筋の片側は蝶番であり、地方は錠前がつけられる様になっている。そして、ロール状のトイレーパーをいくつかこの水平鉄筋に通し、錠をかけておくのだ。客はトイレに入ると先ずこの紙を自分の必要分だけ見込んでクルクルと巻きとってひきちぎり、それを持って便器へ向うのである。この巻紙の質は、見ただけで分かるが再製紙であり、色も形状も悪く、表面も粗い。何故便器の傍に紙を

とりつけないのか、何故巻紙を通した鉄筋に錠をかけるのか、誰でも疑問に思ふであろう。結局我々にとっては質の悪い再製紙であっても、今の中国の庶民にとっては極上の部類であるので、盗む奴がいるのだ。それを防止する為に錠をかけるらしい。個々の便器にとりつける錠の数が多くなるので入口に巻紙を集めて集中管理しているらしい。同じ集中管理といっても、我々とは発想が異なる。

この様に紙が備えてあるのは空港位のもので、他の公衆トイレや会社のトイレには、大体紙は無い。使つた紙はどう処置するか、勿論ホテル等はそのまゝ、便器内に落して流して了うが、空港を含め、他の一般のトイレは、便器の傍に針金で編んだ紙屑籠が置いてあり、そこに捨てる様になっている。他人の使つた紙の生々しいものを、目の先半メートル程の所に見ながら糞を垂れるのは、やはり余り気持よいものではない。結局は糞を肥料にする為に紙は別にした所から来た習慣なのであろう。トイレ掃除の時に、この紙屑籠の中味は、そのまま、持って行き、火にくべて焼き捨て、いる。私が永年勤務した電力部のトイレもそうしている。都会では紙があるから紙を用いる。殆どが再製紙であるが、それ

も色々な種類があり、まるでボール紙の様なもの、又はやすり紙の如きもの、等もある。この様な紙の方が、庶民にはうけがよい様だ。俺は痔の気があるから、柔い紙より、この様な粗いザラ／＼した紙の方が、よく拭けて気持よいことを豪語する者すらある。しかもっと多いのは有り合わせの紙を使うのが最も一般的であろう。やはりロール状のトイレペーパーは、中国庶民にとっては、未だ／＼高級品に属するのだ。

私はよく出張した。農村や川原又は山岳地に入って野糞を垂れた紙があれば勿論それを使うが、持ち合わせがない時は、木の葉っぱを使う。一番簡単であり、紙如きもので自然界を汚すこともない。やはり自然のリサイクルである。木の葉がない所では小石を拾えばよい。太陽に照らされ、適当な温度に暖められた小石で拭きとるのは、何とも云えない気持ちよさである。今から考えると、川原だったら水が近いから水で洗うべきであったと思うが、不思議とその時は考えつかず、小石で済ましていたし、他の人々も皆同じ様であったと思う。

立ち小便

JR某駅に「小便小僧」の像が

ある。元々どこかの外国のものをまねたらしい。可愛いオチン／＼をつまんだこの幼児は、いかにも気持よさそうに放水している。可愛いと思うのは、小生だけではないだろう。

しかし、もしこわが女の児だったらどうだろう。女の子のおしっこしている像を作ったら、人は可愛いと思うだろうか

所が人が成人すると逆になるから不思議だ。一物をブラ下げた男子は、彫刻で一部見られるのみで、ヌードと云えば、彫刻ばかりでなく、絵画、写真等はすべて圧倒的に女性である。人の成長と共に美の観念も変わるらしい。

話が横道にそれて了った。元に戻そう。

日本人は平気で立小便をする。車が止まったと思ったら、飛び出して来て、道路端で景気よく放水をする。女性が近くにいうのが、いまいと。これは日本では至る所見られる風景である。かく云う小生も、同様の行動を何度かした覚えがある。

所が中国では、中々立小便の姿を見る事は難しい。特に都会では殆どいってよい位、立小便を見かける事はない。よく中国に関する書物に、中国には「酔っぱらいと立小便はいない」と書かれていたが、これは昔から、確かにそうであ

あったらしい。

勿論必要な場合、野外とかでは止むを得ないので、現地の条件下に解決する事となる。例えば野外での踏査や測量の時である。夏は農作物が多いので、そこらにもぐればよいが、冬の東北(旧満州)では相当苦勞する。即ち、気温は零下30度から40度にもなるので、農作物は勿論なく、土地も深さ2メートルから3メートルも凍つて了う。鶴嘴で掘つても、ピクとも

しない。正に岩石である。我々は股引の上に、真綿のズボンをはき、その上に犬の毛皮のズボンを重ねる。上は毛糸、真綿、更に毛皮、その上に羊の毛皮のオーバーを着ている。頭は貂の毛皮の防寒帽で包む。この様な完全武装のいで立ちであるから、小用を足すのは大変なことなのである。先ず毛皮の手袋と毛糸の手袋を脱ぐが、手の指は已にかじかんでいる。そしてその寒さに麻痺して利かない指で、何重にもはいているズボンのボタンを外し、その奥からやはり寒さにすっきり縮こまつている一物を探り出し、ひっぱり出すのである。

云うのは易しいが、実際は、中々出て来ない。その頃は一般には我慢の限度の時であるから、一寸刺戟を与えただけで、破裂しそうな状態なのである。そのあせりと苦しみ、及び成し遂げた時の放心放

水の気持、御経験のない方には、お分かりにならないかも知れない。昔よく人に次の如く云われた、満州で立小便をする時は棒を持つて行け。一物にぶらさがった棒状水をた、き折るのだ」と。これは、その位寒いのだぞという譬喩の誇張であり、実際はそんなことはない。地面に落ちた液体は当然氷るが、棒状水がぶら下がる事はなからう、安心された。

学生時代に読んだ安田博士の「人間の歴史」に、昔男性はしゃがんで前に小便をし、女性は立つて後に小便をした」とあり、ワザ／＼挿画まで副えてあったと思う。確かに子供の頃、日本の田舎では主婦や老婆が田畑や道端で立ち小便をしているのをよく見かけたが、中国では、その様な景色も習慣も見ることがない。

最後に

以上中国のトイレに関して思いつくま、書いて見た。別に記録しただけでなく、たゞ記憶にあつたものを思い出し乍ら書いたもので、事実の正確度については、それ程自信ある訳ではない。その点はどうぞ悪しからず。もつと色々あるが、きりがないので此の辺で筆を擱こう。少し中国のトイレのおくれた所ばかり書き過ぎた嫌が

あるが、これはやはり夫々の地方の歴史文化文明の度合と風俗習慣の違いの一つの表現なのであろう。日本でもあの国鉄の一番のトイレの汚なさ、あの鼻をつく臭気は、つい昨今の如く我々の記憶に生々しく残っている筈だ。

前にも一寸述べた様に、トイレは日本では常に北向の片隅に押しやられ、日陰者扱いを受けて来たし、中国でもつい最近までは、何か罰だと云うことぐ「便所掃除」と来る。これは甚だ不当な待遇である。昔は糞土が肥料として農作物の豊作をもたらすことから、廁に神性を認め、廁を祝つたこともあつたと史実にあるのに。これらの歴史と由来及び変遷を調べると面白いに違いないが、残念乍ら私は今の所その暇がない。

これと同じ様な境遇のものに下着がある。昔或人から、古今東西老幼男女の下着の種類や変遷について話を聞いた事があるが、どこまで本当かどうかは別として、たゞ非常に面白かつたことだけ覚えて

いる。昔は着物に「よそ行き」というものがあり、下着はどうせ見えなものであるからと、余力を入れたが、特に女性は下着にも金をかけ出し、下着の贅沢を楽しむ様

トイレも同様に、昔の暗い陰気な臭気たちこもるイメージから、明るく清潔なものへと変って来ている。一生にトイレで過す時間を計算した物好きな人がいたが、それ程人生の生活に密接な所であるから、やはり冷遇せず、下着同様愉快に楽しむ様な方向で考えて行くべきであろう。柱離宮のトイレは、書見が出来る様に設計されていたと記憶しているし、昔の高校では便哲というのがあった様だ、排泄の快感にひたり乍ら、無心に帰り、思考をもてあそび、哲学を楽しむのである。

人生は、長い様で短いものである。わずかかも知れないが、毎日のトイレの時間も、楽しむと同時に、もっと有効に過して行く事を考えるべきかも知れない。

私事乍ら、一昨年新築して移った我家には、噴水つきの便座を装備したが、これは使ってみると実に快適である。正に21世紀のトイレであろう。適度に暖められた便座に腰かけて、温水の噴水でお尻をきれいに洗滌して貰う感触は、何ともえぬ心地よさであり、密室で一人、悦に入っている毎日である。(完)

トイレ後記

私が中国のトイレに関する原稿

を編集へ送ったのは、1988年1月であったが、その後、次の様な新聞記事や書物が発行されている。

電気新聞「焦点」

1988・5・23

日本経済新聞「春秋」

1988・7・7

朝日新聞「天声人語」

1988・9・11

トイレ学入門 光雲社

高知大学 鈴木教授著

今まで余り気がつかなかったが、トイレに関心を寄せ、且つ色々研究されておられる方が、案外多いのに驚くと共に、何れもトイレを過去の暗くて汚いイメージより、明るく楽しいものに変えようという趣旨であり、私の考えに、まさに一致するので、大いに心強く思った次第である。

特に、「トイレ学入門」は、著者は医学者の立場から、凡ゆるトイレに関する文献を読まれ、世界中のトイレの調査に言及されており、実に面白い。私の文章が洛友会報に連載され始めてから、先輩や後輩の方々から「面白い」という激励の便りを頂いて恐縮しているが、鈴木教授のこの本は、もっと面白く、一読をおすすめする。

確かにトイレはどんどん進歩し

ている。某電力会社の本社トイレに入ると、小の方は、用が済んで壁から離れると、自然放水となる。大の方は、ヒーター内臓の暖かい便座に腰かけ、悠然と排泄した後、ノズルより噴出するジェット水流によって局部をキレイに洗滌し、温風で乾かしてくれる。手洗いは、手を差し出すだけで、せっけん水、お湯、水等が夫々程よい流量で噴出し、その後は熱風で乾燥してくれる。

最近のビルディングは、どんどんこの様な殆ど完璧とも云える「インテリジェントトイレ」を採用している。

しかしこれで究極のトイレに達してつたのだらうか、いやまだまだ色々研究開発出来る点があるのだ。トイレは、何度も強調した様に、一時期とも人間生活から離れることが出来ない重要極まりないものであるから、今までの様に、「御不浄」と見做して「はばかたたり」しないで、明るく清く堂々と討論して、もっともっと楽しいもの、面白いものを皆で考えて行ったらどうだろうか。

例えば、宇宙衛星に於けるトイレは、已に、男女とも、大小とも解決している筈であるが(宇宙生活に関する本や展覧会を見たが、トイレに関しては、未だに不明)地上に於ける合理的且つ優美な携

帯トイレは出来ぬものか、何故なら、最近では、高速道路の渋滞がひどいし、又女性もほとんど社会に進出し、至る所で活躍しているのだから、この様な状況の下、即ち、「働きながら」「運転しながら」「歩きながら……」等の「ながらトイレ」は出来ないものかと思う。

トイレのこと、「下」の事というのと、「いやらしい」と云って、本当は、興味ありながら、すぐ避ける真似をする、この過去の風習は、もう、そろそろ捨て去るべきであろう。

我々は勿論素人であるが、仕事の合間に、職業と全く関係ないトイレ等についていろいろ考えて見るのも、ストレス解消にもなつて結構楽しいのではないか。

例えば、満員電車でも本も読めない時は、じっと目をつぶって、少しトツでもよいから新型のトイレを考案してみよう。もし周囲に閑取の様な巨漢がいたならば、早速超肥満漢の肉体的特徴と、排泄の構図から、その専用トイレについて、考案瞑想にふけるのも中々愉快ではないか。但し迷想し過ぎ、大の大人が、一人ニヤニヤ思出し笑いをしたり、クスクス忍び笑いをする嗜好は、決してよいものではない。

思いつくま、又々駄文をこねて了つたが、私の主張は、要は、

編集子より

「明るく楽しく、合理的健康に」というに盡きるのだ。トイレについては、まだまだ沢山書きたい事があるが、一先ず此処で筆を擱く事としたい。

「中国雑記」は洛友会会報第139号(昭和62年4月号)に掲載してから2年半にわたり9回を以て完結しました。途中一回の休載や紙面の都合上分断掲載になり筆者や読者に対しご迷惑をお掛け致しましたことを深くお詫び致します。

筆者と編集子との関係は、小生が電気教室旧鳥養研の助手をしていた時に学生であり、又居所が近く戦中、戦後を通じてご本人はもとより他の二兄弟(両君共医者)とも交遊がありました。

小生が昭和40年9月(文華以前であった)に中国北京へ行った時にも筆者等と面談した記憶も尚新しいものがあります。筆者は中国より日本へ永任復は任職エンジニアリング株式会社の重役として一年の内半分は中国へと出張の日々が続いており、今年も動乱の中国より5月28日帰国され、5月上旬には北京で近藤名誉教授と行動を共にされました。引続いて中国事情を執筆していただきます。ご期待下さい。

会員住所変更一覽表

平成元年6月30日現在

(表中略敬称)

前号(平成元年4月号)に題記発表後6月30日までに212名の会員の住所変更のご連絡をいただきましたが、紙面の都合上昭和50年度卒業までの会員107名分しか掲載出来ませんので、これ以降の年次会員の分は、次号掲載とさせていただきます。あしからずご了承の程お願い申し上げます。

卒業年	氏名	住所	〒	電話
昭050	横田 清一郎	東京都世田谷区砧6-1-8-201	157	03-417-3686
◇070	石川 清	横浜市旭区白根6-46-5(表示変更)	241	045-954-3577
◇080	林 正夫	西宮市甲子園口3-9-33-502	663	0798-67-7643
◇100	中沼 保三	京都市西京区松尾木ノ曾52-33 中沼吉博方	615	075-381-7527
◇120	丸山 孝雄	明石市宮の上1-17-910	673	078-922-5010
◇165	津村 元	横浜市港北区大曽根2-55-17	222	045-541-0806
◇170	江見 耕平	岡山市湊447-48	703	0862-76-4109
◇210	三上 謹五	仙台市若林区中倉1-19-3	982	022-232-4624
◇250	今谷 堀八郎	大垣市割田1-1-41	503	0584-89-1688
◇250	柴田 厚夫	広島市佐伯区皆賀1-9-31-12	731-51	0829-24-5315
◇250	柴田 賀郎	大阪府豊能郡豊能町東ときわ台2-18-35	563-01	0727-38-5189
◇250	三橋 成生	座間市立野台380-23	228	0462-51-2304
◇260	鈴木 恵雅	名古屋守山区瀬古宝善寺14-8	463	052-794-8519
◇260	西村 佳寿雄	横浜市戸塚区南舞岡4-26-28	244	045-821-2203
◇286	串間 拓夫	藤沢市渡内380-45	251	0466-27-6344
◇286	藤本 一郎	奈良市神功4-22-2 グレーシー高の原216	631	0742-71-2618
◇300	安藤 孝野	仙台市泉区旭丘堤2-11-14	981	022-272-1501
◇300	葉原 耕平	京都府相楽郡木津町兜台2-1-6-501	619-02	07747-2-1331
◇300	吹込 直温	西宮市宝生ヶ丘1-11-11(表示変更)	669-11	0797-84-0308
◇310	辻垣 淳一	生駒市東菜畑2-871-3	630-02	07437-3-6348
◇331	石原 賢司	大野城市南ヶ丘3-20-1	816	092-596-2859
◇341	土橋 多一郎	札幌市南区真駒内緑町3-4-4-804	005	011-583-3766
◇341	西村 勝	東京都江東区亀戸8-2-1	136	03-683-5211
		マントミパークハウス210号		
◇341	村尾 久	小野田市波瀬ノ崎 中電社宅	756	08368-8-2399
◇341	山口 文雄	佐世保市卸本町40-9-202	857-11	0956-31-9897
◇342	大田 寛	仙台市泉区高森4-2-117	981-31	022-378-6925
◇342	田村 早苗	茨城県那珂郡東海村舟石川747-73	319-11	0292-82-3343
◇342	深尾 正之	浜松市広沢1-23-2-127	432	0534-58-0273
◇351	角 忠夫	多摩市連光町4-3-3	206	0423-74-0052
◇351	西尾 秀和	西宮市高須町1-1-17-701	663	0798-41-6621
◇352	寺澤 美純	広島市南区向洋新町3-23-37	734	082-284-7828
◇361	宇野 喜博	門真市千石西町4-37-103	571	0720-82-9013
◇361	大串 健吾	京都市西京区大原野東竹の里町2-1-11-501	610-11	075-331-1524
◇361	布野 博彦	出雲市上塩冶2521-5 布野睦也方	693	0853-22-8694
◇362	石野 武彦	大津市比叡平3-42-24	520	0775-29-2902
◇371	芦谷 正裕	西宮市満池谷町7-2	662	0798-74-0908
◇371	荻田 正雄	横浜市栄区上郷町1708-37	247	045-892-3887
◇372	新美 康	宇治市天神台3-1-50	611	0774-21-2225
◇372	原田 実	東京都大田区田園調布1-49-2	145	03-722-5645
◇381	中村 壮	水戸市双葉台2-18-13	311-14	0292-53-2490
◇382	小寺 信夫	飯塚市大字伊岐須1-4	820	0948-23-6234
		九州工業大学公務員宿舎3棟302号		
◇391	児山 正弘	奈良市東登美ヶ丘5-18-17	631	0742-46-0959
◇391	田中 智	横浜市磯子区洋光台6-29-43	235	045-833-1423
◇392	相京 和弘	君津市久留里市場350-D-201	292-05	0439-27-3758
◇401	橋本 進一朗	長岡京市高台西4-4	617	075-951-8546
◇402	上林 弥彦	福岡市早良区高取1-11-23-107	814	092-822-7134
◇402	清水 義彦	神戸市須磨区神の谷5-10-67	654-01	078-793-5674
◇402	万袋 昭	茅ヶ崎市幸町12-23	253	0467-82-3375
◇411	宇野 克彦	福岡市中央区六本松4-4-20	810	092-715-7487
		九電六本松アパート7332号		
◇411	大上 善範	山口市中央4-8-5-511	753	0839-22-9658
◇411	四宮 幸生	高松市花園町2-5-9	760	0878-37-7566
◇412	竹原 壽良	春日市須玖1457-3 東峰マンション春日401	816	092-574-3580
◇412	吉田 喜史	奈良市神功4-19-2	631	0742-71-4784
◇413	浅野 正邦	前橋市昭和町3-38-24	371	0272-32-3602
◇421	井上 守	松戸市初富飛地7-480	270	0473-89-6086
◇421	内田 雅幸	横浜市栄区尾月7-8	247	045-895-0258

卒業年	氏名	住所	番	電話
昭421	川合 一行	名張市百合が丘東八番町271	518-04	05956-4-1656
ゝ421	根石 信一	愛知県愛知郡日進町折戸藤塚105-154	470-01	05617-3-2198
ゝ423	池田 正一	東京都杉並区久我山5-6-16-502	168	03-247-1627
ゝ423	塚田 幸彦	川越市霞ヶ関北2-23-7	350	0492-33-9872
ゝ423	松田 桑彦	宇治市伊勢田町蔭田1-31 中川三耀子方(連絡先)	611	0774-44-6574
ゝ431	佐々木 拓二	東京都港区北青山2-7-26-1105	107	03-5474-4873
ゝ431	赤松 則男	徳島市住吉4-9-3 第5三宅ビル407	770	0886-54-1107
ゝ433	赤島 勝弘	吹田市千里山竹園2-20-602	565	06-387-7746
ゝ433	関 祥行	横浜市鶴見区北寺尾3-10-13-202	230	045-583-3878
ゝ442	井上 英也	東京都世田谷区代沢4-30-6-302	155	03-418-0706
ゝ443	勝部 武樹	平塚市日向岡2-3-18	254	0463-58-8262
ゝ443	神谷 俊夫	生駒市鹿の台西3-7-2	630-01	07437-8-7364
ゝ443	森 克己	福山市幕山台7-265	721	0849-47-7854
ゝ443	松下 茂彦	東京都練馬区豊玉南3-24-7-102	176	03-948-4844
ゝ451	大山 幸藏	河内長野市清見台5-12-11	586	0721-64-0036
ゝ451	山崎 芳次	西宮市甲子園五番町8-30-2-301	663	0798-46-8775
ゝ452	大山 森乾	広島市佐伯区観音台2-24-18	731-51	0829-22-8378
ゝ452	大亀 井孝	西宮市甲子園口2-8-5 (留守宅)	663	0798-67-3477
ゝ452	桑原 茂	枚方市東香里南町50-15	573	0720-54-3041
ゝ453	伊藤 正	福島市南向台1-10-5	960	0245-21-3252
ゝ453	数村 勝	高槻市真上町5-5-31	569	0726-81-0265
ゝ462	青木 均	茨木市庄1-8-19	567	0726-24-4364
ゝ463	福島 重博	飯塚市大字伊岐須1-4-3-502	820	0948-29-5366
ゝ471	野村 博司	大津市瀬田月の輪町734-62	520-21	0775-43-1910
ゝ472	田原 民人	三田市あかしあ台1-19-4	609-13	0795-65-1521
ゝ472	濱田 勝義	高槻市寺谷町17-5	569	0726-88-7245
ゝ472	藤原 久男	京都府相楽郡精華町字小狛小字車付7-104	619-02	07749-3-2101
ゝ472	渡辺 幸二	名古屋市中区黒門町150 渡辺清一方(連絡先)	461	052-937-6050
ゝ473	波新 美保	浜松市半田町4946-4	431-31	0534-33-3318
ゝ473	八坂 保	宇治市木幡須留5-107	611	0774-33-1864
ゝ481	井上 茂	仙台市泉区虹の丘4-13-24	981-31	022-377-1094
ゝ481	清水 敏光	松山市持田町1-3-47 持田住宅216	790	0899-31-2766
ゝ482	清 水博	札幌市中央区南22条西9-1-6-410	064	011-521-3749
ゝ483	安藤 晴夫	川崎市川崎区京町2-24-6-1301	210	
ゝ483	川上 孝仁	久留米市荒木町荒木1061	839-01	0942-26-2313
ゝ483	鬼頭 達男	横浜市緑区荏田北2-7-50	227	045-911-9096
ゝ483	船橋 治雅	東京都世田谷区喜多見9-11-1-104	157	03-488-0972
ゝ483	宮本 順一	浦和市井沼方270-1-405	336	048-874-7995
ゝ483	山本 博	横浜市栄区公田町304-9	247	045-893-9777
ゝ483	山本 正一	千葉市大金沢町1014 おゆみ野2-44-9	280-02	0472-91-7103
ゝ492	成松 憲隆	田無市南町6-9-16 マスダコーポ203号	188	0424-68-5613
ゝ492	松山 吉一	岡山市津島東4-18 岡山大学宿舎H4-303	700	0862-55-7269
ゝ493	嶋谷 吉治	新座市栄4-6-14-502号	352	0484-81-9333
ゝ493	藤本 靖孝	高松市木丸町9区817-182	760	0878-68-2363
ゝ493	山内 孝	山梨県南都留郡忍野村 ファナックマンションハリモミ6-202	401-05	0555-84-5555
ゝ501	伊与田 功	東京都世田谷区三軒茶屋1-12-14 三菱電機 上馬住宅B-2	154	
ゝ501	松田 治	枚方市楠葉美咲3-12-31	573	0720-57-4518
ゝ502	以頭 博之	小平市上水本町5-16-3-2	184	0423-23-8527
ゝ503	岡井 司行	京都市西京区川島東代町51 マンハイム桂407号	615	075-392-5306
ゝ503	小笠原 和行	神戸市西区梶台4-10-93	673	078-991-6285
ゝ503	松田 正一	名古屋市中区名城3-1-1-309	462	052-991-6149

編集後記

例年より冷しかった梅雨も終り、京都も祇園祭の季節を迎えました。「中国雑記」を二年半にわたり軽妙なタッチで描写された記事も本号をもって完結いたしました。筆者に厚く御礼申し上げます。

本年は電算化名簿第4版の発行年に当りますので、例年になく多数の変更通知をいただきました。住所変更のみでも4月から6月までに212通もいただきましたが全部を掲載できませんでした。不悪ご了承をお願い致します。

訃報

- 大5 井上 函二 1.2.22
 - 大6 佐伯 栄 6.3.7
 - 大14 坂田 勇 6.3.12
 - 講2 落合 勇男 1.1.26
 - 講3 本庄 重明 1.3.3
 - 講5 片桐 清 1.1.17
 - 講6 小林 千佳之助 6.3.11
 - 講7 高原 正也 1.4.5
 - 講7 角野 久雄 1.4.19
 - 講9 竹中 哲哉 1.2.8
 - 講10 佐々木 武雄 1.6.15
 - 昭16 大内田 敏行 1.5.4
- 以上の方々のご逝去をなさいました。謹んで哀悼の意を表します。